

# 埼臨技だより

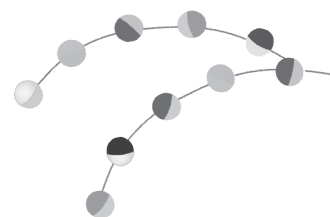
発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095

URL:<http://www.sairingi.com/> 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter: @sairingi



## 年頭挨拶



公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会  
会長 津田 聡一郎

新年明けましておめでとうございます。

会員ならびに賛助会員の皆様におかれましては、健やかな2015年の新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は当会の活動に対しまして、格別のご指導、ご支援を賜り心より御礼申し上げます。

昨年6月の平成26年度定時会員総会にて20名の理事が選出され、引き続き開催された第三回理事会にて、わたくし津田が代表理事(会長)を仰せつかり、初めての年頭挨拶をここに申し上げます。

砂川前会長が旧法の社団法人から新法の公益社団法人とした新生埼臨技の舵取りを半年間、なんとかやっけてまいりました。この間、突発的な「事務所の引越・修繕改築」、日臨技指示の下の事業「検査と健康展」、継続的事业である「精度管理事業」、「県学会」と目まぐるしく活動が続き、今も「検査の説明・相談講習会」「人材育成研修会」の準備が進められています。こうした荒波の中を進めて来られたのは理事のチームワークと、このチームへの会員・賛助会員の皆様の支援の賜物であると心より感謝しております。誠にありがとうございます。

今年度の県学会は会場確保が難行し12月21日と年の瀬もかなり押し迫った時期となってしまいましたが、総参加者数1259名と大変な盛会裡に終えることができ、関係者の努力に感謝申し上げ、ご支援いただいた皆様に御礼申し上げます。

精度保証施設認証制度は日臨技が推し進める事業の一つであり、検査の精度が医療の安心・安全の基礎となる、という臨床検査技師の存在の証しを証明する制度となるように啓発、発展させていきたいと考えております。

本年も役員一同、全力で会務・事業に取り組んでまいります。会員、賛助会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

未年のこの一年を無難に過ごし、皆様様にとって「ウメェー」一年だった、と振り返れるように頑張りたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



さて、その実行委員会は始まったばかりで、日程・会場とも(仮)の状態ですが、第44回学会の学会テーマは「がんを『識』(しる)」に決まりました。「がん」は医療技術の進歩により、さまざまな診断・治療の技術が考案され、成果をあげています。それでも日本においては死因の第1位、多くの人たちが「がん」と立ち向かい、また敗れているのも事実です。私たちがチャレンジするにはあまりにも大きな怪物のようなテーマですが、やりがいのあるテーマだと思います。また今回のテーマ「がんをしる」ですが、「しる」には「知」ではなく「識」の字を充てることにしました。「識」には「物事の道理を理解する」「物事を見分ける」という意味があります。我々検査技師にとって一番大切なことは「学識を持って(病気を)識別する」ことです。今回の学会はその本幹を「がん」に据え、会員および県民の皆様喜んでいただけるさまざまな企画を検討していきたいと思っております。

さて第44回学会の実行委員は、私がお世話になっている埼玉県職員検査技師会とがん診療連携拠点病院臨床検査ネットワークの病院から輩出していただきました。経験豊かなスタッフと将来を担う若手がバランスよく配置されています。実行委員メンバー20名全員がバイタリティとホスピタリティをいかに発揮して、またこれから団結力を練り上げて、実行委員会を支えていただければと思います。

最後になりますが、総会にて学会長に推挙された際、「記録よりも記憶に残る学会」という話をさせていただきました。諸先輩が残されたさまざまな記録と歴史をつなぎ、参加していただいた皆様が前向きに何かひとつでも感じ取り、記憶に残していただけるような学会にしたいと思います。

会員皆様には一年間の叱咤激励とご協力をお願いし、お知らせとご挨拶に代えさせていただきます。

#### 第44回 埼玉県医学検査学会実行委員

| 役 務          | 氏 名     | 勤 務 先               |
|--------------|---------|---------------------|
| 学 会 長        | 岩 田 敏 弘 | 埼玉県立がんセンター          |
| 実 行 委 員 長    | 吉 岡 浩 明 | 埼玉県立がんセンター          |
| 副実行委員長兼・学術部長 | 伊 丹 直 人 | 埼玉県立がんセンター          |
| 事 務 局 長      | 岡 田 茂 治 | 埼玉県立がんセンター          |
| 運 営 部 長      | 荻 野 毅 史 | 埼玉県済生会川口総合病院        |
| 会 計 部 長      | 松 崎 理 絵 | 埼玉県立がんセンター          |
| 会 計          | 石 井 直 美 | 越谷市立病院              |
| 事 務 局        | 田 中 はるな | 埼玉県立がんセンター          |
| 学 術          | 蔵 光 寛 行 | 埼玉県立がんセンター          |
| 学 術          | 天 野 直 樹 | 埼玉県立小児医療センター        |
| 学 術          | 木 下 佳 美 | 埼玉医科大学総合医療センター      |
| 学術・ホームページ担当  | 石 川 貴 徳 | 獨協医科大学越谷病院          |
| 学 術          | 石 井 圭 一 | 朝霞中央総合病院            |
| 運営・ホームページ担当  | 毛 利 光 希 | 埼玉県立小児医療センター        |
| 運 営          | 田 中 良 子 | 埼玉県立循環器・呼吸器病センター    |
| 運営・ホームページ担当  | 小 原 明   | 埼玉県済生会川口総合病院        |
| 運 営          | 西 田 満喜子 | さいたま市立病院            |
| 運 営          | 滝 沢 昂   | 戸田中央総合病院            |
| 運 営          | 川 野 智 美 | 上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院 |
| 学会担当理事       | 長 岡 勇 吾 | さいたま赤十字病院           |

## 第43回 埼玉県医学検査学会だより

### 学 会 後 記

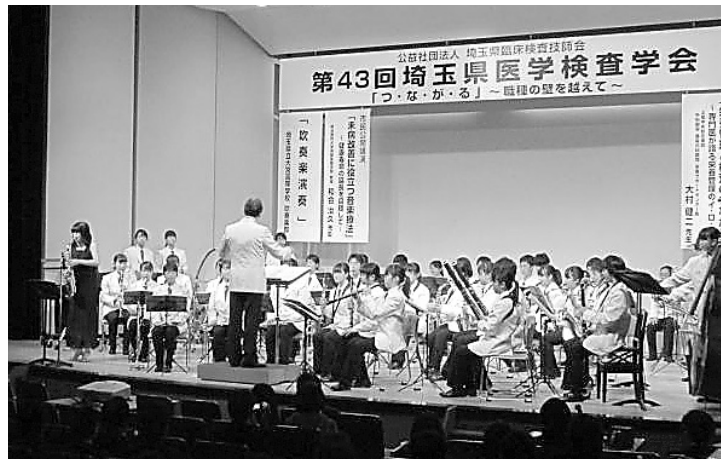
前日からの雨も上がり、寒いながらも快晴の天気恵まれた学会当日。しかし爽やかな天気とは裏腹に、多くの演題とタイトなスケジュール。500席もある小ホールにはたして人が集まるか。前日の動作チェックでもうまく動かないスライドもあり、1年半もかけて企画を練ってきたはずなのに、期待と不安が入り混じったというよりむしろ不安が大きい当日の朝でした。

しかしいざ始まってみると、いつもの学会で見る光景と同じように受付が開始され、各会場のイベントが進行し、そして無事に終了することができました。多くの演題数や多くの参加者数そのものより、大きなトラブルもなくスムーズな運営ができ、無事に終了できたことが我々実行委員の何よりの喜びでした。当日実務委員および座長・演者の皆様、そして会員・賛助会員皆様のご協力に感謝いたします。

今学会の目玉は小ホールでの生演奏でした。企画は当初からあったのですが、「はたして人が集まるか？空席ばかりだと奏者にも失礼では？演奏を頼めるつてもない」と委員会ではネガティブな意見が多く一旦はボツになってしまいました。しかし学会長の強い熱意で再び議案に上り、開催にこぎつけた企画です。結果は小ホールがほぼ満席、立ち見も出るほどの大盛況でした。皆様も迫力のある素晴らしい演奏に感動されたことと思います。

県学会では昨年も100を超える演題数と1000人を超える参加者数でした。埼玉県の勢いを感じます。この勢いを来年もそしてずっと「つ・な・げ・て」いきたいと思います。

学会当日の様子や我々実行委員のプロフィール、1年半に亘る活動記録など学会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。  
(実行委員長：飯田眞佐栄)



大宮高等学校吹奏楽部の演奏





### 参加者数報告

学会参加者総数 1,259名  
 (内訳：有料入場者数1,012名、  
 一般市民122名、学生125名)  
 市民公開講演 450名  
 動脈硬化検査体験コーナー 135名



## 第43回埼玉県医学検査学会実行委員会から お忘れ物のご連絡

学会会場内にメガネ用の黒いハードケースの忘れ物がございました。お心当たりの方は飯田実行委員長までご連絡ください。

電話：048-912-3110 (直通)  
 メール：masae.iida@achs.jp



## 各研究班の研修会報告を致します。

テーマ **生理検査の「まずはこれを学べ！」講座その2**  
 ～これから生理検査に携わるすべての人に～

主催 生理検査研究班

実施日時：平成26年5月24日 14時30分～17時50分

会場：北里メディカルセンター 講堂 点数：専門教科-20点

講師：講演1：肺機能検査で正しいデータを得るために

講師：家城 正和 (埼玉県立がんセンター)

講演2：血液ガスデータから患者状態を読み取ろう

講師：横山 稔 (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社)

講師3：病院で必要な接遇

講師：田名見里恵 (上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院)

参加人数：会員30名

出席した研究班班員：野本隆之 仲野浩 瀧沢義教 家城正和 高梨淳子 早川勇樹  
 関口知詠子 田名見里恵 丸山陽介

研修内容・感想など

研修会の主題としては、生理検査の「まずはこれを学べ！」講座その2～これから生理検査

に携わるすべての人に～とした。

講演1としては、肺機能検査で正しいデータを得るためにどうしたらよいかについて、家城技師の講演があった。ある病院の新人〇〇君の呼吸機能検査室での1日の紹介があった。朝の精度管理から始まり、検査の実際、結果報告までを漫画ストーリー仕立てで話が進んだ。後半では、この日の〇〇技師のいけなかった点を研修会参加者で考えた。参加者からは精度管理の誤り、検査時の患者姿勢、測定回数や報告結果の誤りなどの指摘があった。肺機能検査を見直すのにはよい企画であったと思う。

講演2は、血液ガスデータから患者情報を読み取ろうとの演題で、横山氏に講演をお願いした。講演は血液ガス分析とは…から始まり、pH、pCO<sub>2</sub>およびpO<sub>2</sub>測定の意義、pH、pCO<sub>2</sub>、やpO<sub>2</sub>から得られる演算項目について、酸塩基平衡の指標やガス交換の指標としての使われ方を学んだ。後半では症例を提示し、データの詳しい解説があった。血液ガス分析は、緊急性が高く、直接呼吸・循環状態を反映する重要検査であることが分かり、勉強になった。

最後の講演3は、病院で必要な接遇について田名見技師の講演を聞いた。接遇とは思いやる心を持って対応する、相手をもてなすことである。また、病院における接遇とは納得、安心、満足を患者に与えることであり、病院に来た患者にそのように思ってもらえることが医療従事者として大きな目標となる。接客に従事する人は、お客様に対し適切な態度、適切な言葉で接すること。それらが不適切だと苦情の源となったり、患者離れが起こったり、最終的に減収など、他の業種と同じように自分たちに不利益が生じる。テクニカルスキル（ハード面）とヒューマンスキル（ソフト面）が重なるところで、患者に「納得」「安心」「満足」な医療を提供したと言える。信頼されるための要素としては、身だしなみ、話し方、態度である。また、上尾中央総合病院の接遇への取組活動の紹介があり参考になった。われわれが専門職として身に着けるテクニカルスキルは医療従事者として欠かせない重要な要素であるが、患者に納得・安心・満足していただく医療を提供するためには、ヒューマンスキルも必須要素となっている。質の高い医療技術や専門知識とともに、サービスの質を高めていくことが求められており、組織全体での「サービス」への取り組みが必要となる。患者の満足度は、医療関係者のコミュニケーションの質によって変わるとのことである。来院された方々からは、「この病院に来てよかった、次回もこの病院にしよう。」と思われたいものである。

(文責：瀧沢義教)

## テーマ 腹部超音波実技講習会

### スクリーニングの手技 ～10年先でも使える技術を身につけよう～

主催 生理検査研究班

実施日時：平成26年 7月19日 10時00分～16時00分

会場：埼玉県済生会栗橋病院 講義室 点数：専門教科－20点

講師：野本 隆之（上尾中央医科グループ 吉川中央総合病院）

実技講師：堀内 正志（東京都健康長寿医療センター）

野本 隆之（上尾中央医科グループ 吉川中央総合病院）

仲野 浩（埼玉医科大学病院）

田名見里恵（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

参加人数：会員25名

出席した研究班班員：野本 隆之 仲野浩 瀧沢義教 家城正和 高梨淳子 早川勇樹

関口知詠子 田名見里恵 丸山陽介

## 研修内容・感想など

初心者を対象とした腹部超音波検査実技講習会が午前講義、午後実習の日程で開催され、参加者の多くは初心者であった。

午前の講義は、野本技師にお願いした。講演は初心者が対象であることから、画面の調整の話から始まった。スクリーニング検査を行う為には、『知識+技術』が必要！とのことである。腕の良し悪しが結果に直結する。次にはプローブの握り方の良い例と悪い例の提示があった。また、脂肪肝、慢性肝炎や肝硬変患者の超音波画像を供覧し、演者からは評価ポイントの話があり勉強になった。肝臓の次に胆嚢の話があった。胆嚢の観察では、アーチファクトの影響を受けやすい臓器なので、回避の仕方についての話があった。胆嚢内病変の評価については可動性が無いことを確認し、いくつか異なる方向からの体位変換による観察も必要となる。また、胆嚢ポリープ計測の悪い例、良い例の話が合った。ポリープのサイズ計測は経過観察、精密検査や手術のタイミングを計るため非常に重要となるが、間違った計測が多いようである。最後に膵臓と脾臓の抽出ポイントの話があった。膵臓は抽出しにくい臓器である。膵臓頭部～尾部までしっかりと観察するには、体位変換などを行うことが大切となる話があった。検査結果を報告するには、見た目の所見を羅列するだけではなく、それが何を反映しているのかを考える。そうすることで、思い込みによる間違いが減らせる。「技師ならではの視点で報告しよう！」とまとめていた。

午後からは経験年数により4班に分かれ実技講習会が開催された。今回の講習会には、これから腹部超音波検査を始める技師や検査経験年数の浅い技師の参加が多かった。そこで実技講習会では、探触子の持ち方、測定装置の名称などの説明から始まった。その後、探触子を實際握り腹部超音波検査の実技講習が始まった。被検者は、研究班員と病院関係者にお願いした。実技指導者からは、検査の順番、抽出画像の説明、画像抽出のポイントや息止めの仕方などについて、実技講習中に説明を加えながら進められた。また、うまく画像を出せない受講者に対しては、探触子を指導者と共に持ち、感覚を掴んでもらった。

今回、講習会に参加したことで、初心者の方にも腹部超音波検査のテクニックが身に付いたのではないかと思われる。

(文責：瀧沢義教)

テーマ **梅毒検査・風疹検査について学びましょう**

主催 血清検査研究班

実施日時：平成27年11月21日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科-20点

講師：中岡 啓一 (極東製薬工業株式会社)

参加人数：会員39名 賛助会員4名

出席した研究班班員：齊藤雅一 庄司和春 相坂由里子 鈴木敦子 持田和紀 大島まり子 佐野悦子

## 研修内容・感想など

梅毒および風疹の概要、近年の流行状況、感染経路や感染者の動向、検査と診断、および治療について中岡氏に講演していただいた。梅毒では近年問題となっているHIVとの重複感染者の概要および問題点など、風疹では2013年の大流行時の流行の特徴とワクチンの接種対象の変遷の関係および、検査法およびガイドラインの変遷についての解説があった。とくに各検査方法やガイドラインの説明は今後の日常業務に役立つのではと考えられた。

(文責：佐野悦子)

テーマ **非溶血性副作用の原因と血液センターでの調査**

講演 1 : HLA・HPAについて

講演 2 : 血漿蛋白について

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成26年11月21日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科-20点

講 師：講演 1：東 史啓（日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所）

講演 2：嶋田英子（日本赤十字社 血液事業本部 中央血液研究所）

参加人数：会員53名 賛助会員 2名

出席した研究班班員：武関雄二 佐藤祥子 神戸考裕 長谷川卓也 齋藤翔子 黒田果織  
今井厚子

## 研修内容・感想など

今回の研修会では、「非溶血性副作用の原因と血液センターでの調査」というテーマで、「HLA・HPAについて」と「血漿蛋白について」の講演をお願いした。

はじめにHLA・HPAについて、東氏に講演していただいた。各医療機関からの輸血副作用報告の集計結果や、代表的な副作用“TRALI”“輸血後GVHD”などについての説明に加え“免疫反応”や“HLA”についての基本的な内容を、イラストをまじえ、わかりやすく説明していただいた。

次に、血漿蛋白について嶋田氏に、アレルギー反応の機序、血漿蛋白の概要、検査法、欠損についてなど詳しく説明していただいた。ハプトグロビン欠損の割合が多く、これからも注意していく必要があるとのことであった。医療機関から依頼された副作用調査の具体例の中に原因不明の症例もあり、原因が特定されない副作用も多いとの説明があった。

今回、2つの内容の講演を聴講させていただき、我々医療機関が輸血副作用について、重篤度にかかわらず、きちんと血液センターへ報告していくことが重要であると感じた。何度か繰り返される副作用があった場合には、血液センターに相談をし、検査依頼をお願いするなど、患者に有効で安全な輸血を行うために、医療機関と血液センターが協力していく必要があると強く感じた。

(文責：今井厚子)

テーマ **FAB分類から始めよう、形態から病気が見える、  
認定血液検査技師を目指そう！**

主催 血液検査研究班

実施日時：平成26年11月27日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科-20点

演 題：骨髓像の見方・考え方

講 師：清水 宏伸（株式会社 ベックマンコールター・ダイアグノスティクス  
学術統括部門ヘマトロジー学術部東日本ヘマトロジー課）

参加人数：会員58名

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 原誠則 岡安幸子  
軍司雅代 圓田和人 橋口恵子

## 研修内容・感想など

骨髓検査の目的・進め方・細胞の解説～結果報告・造血器腫瘍の分類・症例まで、幅広くか



つ簡潔に講演していただいた。CMLについて各病期別の症状・検査データの比較や、AML (M3) のDICの特徴 (線溶優位型—AT正常～軽度低下) など日頃骨髓検査に携わっていない人にもわかりやすい内容であった。

骨髓検査にかかわっている技師に対しては、再確認すべき内容が整理できたことと思う。さらに、参考となったこととして、症例に付随して報告所見が示されていたことは、他の症例検討会でもここまで丁寧に解説されることは少ないので大変参考になったことと思う。

最後に認定血液検査技師の試験内容に触れた。骨髓のみならず、末梢血についても形態異常を的確に判断し、病態を予測したうえで主治医に報告、さらには必要とされる追加検査を的確にコンサルテーションできることが求められている内容であることがよく分かった。

(文責：橋口恵子)

## テーマ グラム染色のすべて！ 「見方・考え方・伝え方」

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成26年11月28日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科—20点

講師：中村 文子 (順天堂大学医学部附属順天堂医院)

参加人数：会員77名 賛助会員15名

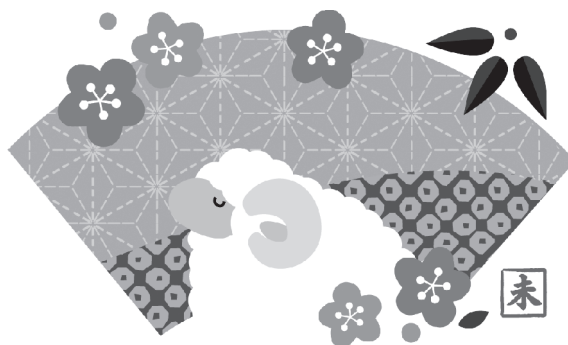
出席した研究班班員：永野栄子 古畑健司 金田光稔 小西光政 砂押克彦 酒井利育  
佐藤香里 牧俊一

### 研修内容・感想など

今回は、「グラム染色；見方・考え方・伝え方」と題して、中村氏に講演をしていただいた。微生物検査関連の診療報酬の話から臨床との具体的な会話の仕方まで、非常に簡潔にかつ詳細に説明していただいた。グラム染色は、もともとクラシックな微生物検査方法の一つであるが、非常に手技的にも難しく、熟練を要する部分もある。しかし染色された標本から手に入れる情報は、莫大なものがある。出現細胞の種類、質、構造物や結晶、菌の形態からは、おおよそ菌種の推定まで可能になる。ただそれらのことは、臨床との患者情報やり取りや、日々の疫学情報が整理されているから可能になると説明されていた。グラム染色塗抹所見には限界があるので100%の正解はないが、確かなことは明解に伝える努力はしてください、という言葉はとても印象的であった。

今後も、グラム染色にかかわる勉強会は継続して開催したいと思う。

(文責：金田光稔)



**平成26年度**  
**公益社団法人埼玉県臨床検査技師会**  
**第10回 理事会議事録**

日 時：平成26年12月12日(金) 18時30分より

場 所：JCHO埼玉メディカルセンター  
さいたま市浦和区北浦和4-9-3

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)津田 神山 矢作 小山 奈良  
猪浦 伊藤 松岡 小島 藤井  
長澤 鳥山 神嶋  
(監事)遠藤 細谷

本日の理事会の出席者は15名であった。理事の出席者は13名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

**Ⅰ. 行動報告**(平成26年11月6日～平成26年12月11日)

11月6日(木)平成26年度公益社団法人第9回理事会：

津田、神山、島村、岡田、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、鳥山、武関、野瀬、神嶋、遠藤、細谷

11月6日(木)新会計ソフト打ち合わせ：

松岡、小島、細谷

11月8日(土)埼玉県医療安全大会：津田

11月9日(日)糖尿病無料相談会：遠藤

11月15日(土)第58回埼玉県公衆衛生大会：

津田、神山、島村、長岡

11月17日(月)60周年記念誌編集作業：

島村、岡田、奈良、猪浦、長岡

11月18日(火)第43回埼玉県医学検査学会第15回実行委員会：岡田、小島、長岡

11月20日(木)第44回埼玉県医学検査学会第1回実行委員会：津田、岡田、長岡

11月22日(土)埼玉県臨床工学技士会公益社団法

人取得祝賀会：津田

11月22日(土)60周年記念誌編集作業：

奈良、猪浦、長岡、伊藤

11月26日(水)第43回埼玉県医学検査学会ソニックシティ打ち合わせ：長岡

12月2日(火)表彰審査委員会：

津田、神山、島村、岡田、矢作

12月8日(月)人材育成研修会講師との打ち合わせ：島村

**Ⅱ. 報告事項**

**1 事務局**

1) 日臨技より検体採取等に関する厚生労働省指定講習会の開催及び受講の周知について案内があった。

2) 日臨技より学術奨励賞、結核研究奨励賞推薦の依頼があった。

3) 第55回全国国保地域医療学会の案内があった。

**2 総務部**

1) 「埼臨技だより」第427号、12月15日発行予定

2) 11月7日(金)埼臨技ロゴマーク商標登録が完了。

**3 事業部**

1) 平成27年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会について。

2) 平成27年2月24日(火)開催、第2回検査室運営研修会について

**4 学術部**

1) 栃木県臨床検査技師会より、第7回TOCHIGIセミナーの共催依頼があった。

2) 各研究班へ平成27年度事業計画、予算案の申請を依頼した。

**5 精度保証部**

**6 会計部**

1) 平成26年正会員費3名分¥15,000、入会金3名分¥3,000合計¥18,000の入金があった。

2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金¥189,000の入金があった。

3) 埼臨技だより第426号印刷代として¥162,302、封筒代¥17,820、埼臨技会誌特集号・発送料¥56,657を石井印刷に支払った。

**7 精度管理委員会****8 日臨技****9 一都八県会長会議****10 日臨技関甲信支部****11 第43回埼玉県医学検査学会**

- 1) 11月18日(火)、第15回実行委員会を開催した。

**12 第44回埼玉県医学検査学会**

- 1) 11月20日(木)、第1回実行委員会を開催した。

**III. 承認事項****1 事務局**

- 1) 会員動向 (会費納入済) (平成26年度分)  
平成26年12月2日現在

会員数 2,551名

(新入会員 202名 [平成25年度会員数2,306名])

賛助会員 74社 [平成25年度 72社] (12月2日現在)

- 2) 埼臨技事務所の冬休みについて

平成26年12月27日(土)から平成27年1月5日(月)までとする。

- 3) 平成26年度臨時総会について

平成27年3月20日(金)18時30分から、大宮ソニックシティ906号室とする。

- 4) 看護協会新年懇話会出席について

津田会長が出席することとなった。

- 5) 日本衛生検査所協会賀詞交歓会について

津田会長が出席することとなった。

- 6) 一般社団法人神奈川県臨床検査技師会賀詞交歓会出席について

関甲信支部代表として神山副会長が出席することとなった。

**2 総務部**

- 1) 60周年記念誌作成枚数について

- 2) 2015年度会員名簿作成について

**3 事業部****4 学術部****5 精度保証部****6 会計部**

- 1) 細谷会計事務所との新たな顧問契約について

**IV. 議題**

- 1 平成27年秋の叙勲及び褒章候補者の推薦について

標記の件について、津田会長より表彰審査委員会決議を受け候補者についての発言があった。

これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認し、会長より候補へ確認後、推薦する運びとなった。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



## 求人案内

○ほさか内科クリニック

採用条件：正職員 臨時職員  
連絡先：04-2941-5731  
院長 穂坂春彦

○医療法人 一成会 さいたま記念病院

採用条件：1年間の産休、育休の代替要員  
連絡先：048-686-3111 内線631  
検査科 加賀谷

○所沢市市民医療センター

採用条件：臨時職員  
連絡先：04-2992-1151  
臨床検査科 土方・池田

○独立行政法人 地域医療機能推進機構

さいたま北部医療センター  
採用条件：正職員  
連絡先：048-663-1671 内線203  
総務・企画課 二宮

○川口市立医療センター

採用条件：臨時職員  
連絡先：048-287-2525 庶務課 漆山

○医療法人社団和風会 所沢中央病院

採用条件：臨時職員（パート）  
連絡先：04-2994-1265  
事務長 服部 貢

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

## あとがき

12月21日(日)。前日の雨模様から見事な快晴となり、第43回埼玉県医学検査学会が開催されました。

学会担当理事として2回目の学会は、期待と不安の入り混じった7時30分の集合から、心地よい疲労感を感じた17時の解散まであっという間の1日でした。

学会長をはじめとする実行委員の皆様、当日実務委員の皆様、理事・監事・事務員の皆様、そして1000名を超える来場者の皆様のおかげで、心に残る素晴らしい学会となりました。大宮高等学校の吹奏楽演奏を聞きながら、思わずうるっときてしまいました。

本当に、ありがとうございました。そして大変お疲れ様でした。

最後に、この拙文が掲載される埼臨技だよりは新年平成27年1月の発行予定ですので、新年のご挨拶を申し上げます。

『明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。』

(長岡 記)

